

ユースサービスとライフスキルの関係

鈴鹿 奈美 (生涯スポーツ学科 地域スポーツコース)
指導教員 中道 莉央

キーワード：ユースサービス，ライフスキル，青少年

1. 緒言

ライフスキルとは、「日常生活で生じる様々な問題や要求に対して，建設的かつ効果的に対処するために必要な心理的・社会的能力」(WHO, 1997; 横山, 2010) と定義されている。近年の教育界においては，これを育むライフスキル教育が注目されている(江藤, 2011)。

すでに諸外国では，ライフスキル教育とユースサービスを関連付けた活動が展開されている(枝廣ら, 2013)。ユースサービスとは，子どもから責任ある大人へと成長する青少年を支援し，学校教育活動を補完する重要な役割を担っている。しかし，日本ではユースサービスの認知度が低いため，サービスを受けることで得られる効果について検討されていない。そこで本研究では，ユースサービスの実態とユースサービスとライフスキルとの関係を明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法

本研究は，京都市にある7つの青少年活動センターに勤務するユースワーカー(以下，YWと記す)38名(平均年齢 33.6 ± 13.5 歳，平均勤務年数 8.6 ± 11.73 年)にアンケート調査を行った。さらに，アンケートで実施した記述回答式設問の補足として，YW1名にインタビュー調査を行った。

3. 結果と考察

青少年がユースサービスを利用することで獲得するライフスキルについて，表1, 2のようにYWの属性別に比較したところ，有意な差が認められた。ユースサービスでは普段関わるこ

とのない同世代との関わりを持つため，合意形成のプロセスを学ぶきっかけとなっていることが本調査から示された。そのような活動から得られるライフスキルについて，年齢が若く勤務年数の短い，つまり青少年に近い存在のYWの方が強く感じていることがわかった。

表1 獲得されるライフスキル(年齢別)

	33~65歳		20~33歳		有意差
	M	SD	M	SD	
感情対処	2.94	0.18	3.39	0.16	**

**: $p < 0.01$

表2 獲得されるライフスキル(勤務年数別)

	0~8年		9年以上		有意差
	M	SD	M	SD	
効果的コミュニケーション	3.56	0.86	3.00	0.49	*
感情対処	3.40	0.60	3.00	0.45	*

*: $p < 0.05$

4. まとめ

本研究で以下の4点が明らかとなった。

- ① ユースサービスを利用することで「問題解決」のライフスキルが獲得される。
- ② YWの特性を生かすことで，より高いライフスキルの獲得が見込まれる。
- ③ サービス内容として，多様な人と互いを受け入れ合う経験の保障が重要である。
- ④ ユースサービス独自の活動を提供する必要がある。

本研究ではYWを対象とし，実際に青少年のライフスキル獲得状況について調査することができなかつたため，今後は青少年を対象とすることが課題である。

主な引用・参考文献

- 枝廣和憲ほか(2013) ユースサービスと居場所—アメリカのユースサービスの実際と日本のユースサービスの実際との比較—。学校教育実践学研究会, 19:57-64。
江藤真生子(2011) 中学生を対象としたライフスキル教育プログラムの検討—PPモデルの適用とテキストマイニングによる質的分析を中心に—。琉球大学教育学部教育実践総合センター紀要, 18:163-173。
松野光範・横山勝彦(2009) 「ライフスキル教育」開発プロジェクトの必要性—スポーツ選手を視点に一。同志社スポーツ健康科学, 1:1-7。